

◆十三番（除真夕美）（登壇） 代表質問最後となりました。最後まで傍聴、ありがとうございます。公明党を代表し、知事並びに関係理事者に質問をいたします。

最初に、リニア中央新幹線について伺います。

本年九月、JR東海は、環境影響評価準備書を公表し、東京から名古屋までの詳細なルートと駅位置を示しました。このJR東海は、環境影響評価の公表を受け、先日山梨県へ、公明党会派で調査に参りました。山梨県では甲府市大津町に中間駅が設けられる予定であり、JR東海は来年秋には国土交通大臣より工事实施計画の認可がおりるよう手続を進めています。経過をお聞きしたところ、山梨県も奈良県と同じく、四地域から要望があったようです。最終判断をリニア中央新幹線の建設営業主体であるJR東海に求めたところ、平成二十三年六月にJR東海が示した計画段階環境配慮書により、駅としての必要な機能や条件などの検討が行われ、約二年を経てことし九月に甲府市大津町が候補地域に決まったことでした。一方、奈良県では、全国新幹線鉄道整備法に基づく基本計画や整備計画において、奈良市附近が主要な経過地と決定されていることを受け、奈良県が地元市町村の取りまとめを行いながら、整備計画どおりの三重・奈良ルートの早期実現による全線同時開業とリニア奈良市附近駅の早期確定を目指して三重県との連携を強化しながら活発に活動を展開されておられます。

私自身も、リニア中央新幹線については、名古屋までが平成三十九年の完成ということ、大阪まではその十八年先の平成五十七年、今から三十二年先の遠い将来と考えていました。しかし、平成二十三年五月二十六日に、リニア中央新幹線の整備計画の国土交通大臣決定、翌五月二十七日には国土交通大臣からJR東海に対する建設の指示、さらに十一月には、JR東海が中間駅の建設費を全額自社負担することを公表するなど、動きが具体化してまいりました。これらの動きにあわせ、知事は、リニア中央新幹線の建設促進のため、頻りに国に対し要望活動を展開されておられます。そのような様子を見聞きするたび、私たちも今こそ力を合わせていかなければと感じるようになりました。

そこで知事にお伺いします。先月の政府要望においてもリニア中央新幹線が最重点要望に位置づけられ、太田国土交通大臣に要望されましたが、どのような要望の成果があったのでしょうか。また、現在県内四市がリニア中央新幹線の中間駅の候補地として名乗りを上げていますが、同時開業を実現するためにどのように取りまとめようとしているのでしょうか、伺います。

◎知事（荒井正吾）（登壇） 十三番除議員のご質問にお答え申し上げます。

リニア中央新幹線についてのご質問がございました。

リニア中央新幹線の問題は、近年奈良県が持っております課題の中で最重点に位置づけべき課題だというふうに思っております。したがって、政府要望においても最重点要望として今後とも取り上げていきたいと思っております。議員お述べになりましたが、去る十一月二十日、太田国土交通大臣や鉄道局長とお会いし、平成二十三年五月に決定された整備計画どおり、三重・奈良ルートによる全線同時開業を行うことの要望を行いました。太田国土交通大臣は、いつも道路の陳情にしろ、紀伊半島大水害の復旧・復興にしろ、非常に忙しい中を奈良県知事のアポを積極的にとっていただき、親切に応答していただいております。感謝を申し上げます。

まず、鉄道局長にお会いいたしました。鉄道局長からは、昭和四十八年の基本計画で既に主要な経過地として奈良市附近と決定しているということが明確にされました。また、その次に来ます整備計画を検討するに当たりましては、長年の調査を経まして、JR東海がじっくりと検討を行うとともに、国の交通政策審議会におきまして平成二十二年三月から二十回にわたりまして審議を行い、平成二十三年五月に答申がなされております。その過程を経て、平成二十三年五月に現在の諸情勢を踏まえた整備計画が決定されたものであり、その中でも主要な経過地として改めて奈良市附近が定められているということを確認して述べいただきました。京都市が、鉄道局長にもお会いに来られるようですが、京都は、古く決まったもので古くさいと、こう言っておられるようですが、そういうわけじゃない、最近決まったものだということをおっしゃっていただきました。さらに、太田国土交通大臣にお会いしましたが、太田国土交通大臣は、ルートや駅的位置に関しましては、ことし六月の国会で、現在の計画どおり必要な手続を進めていくことが適当であるという旨を国会答弁されております。先ほども申しあげました鉄道局長の内容に沿ったものでございます。今回の本県の要望に対しましては、一言、私が正式に国会で答弁をしておりますというふうに改め

てご回答をいただきました。これは、整備計画どおりに三重・奈良ルートとすることを求めております本県と同様の考えに立つものであり、心強く感じております。太田国土交通大臣及び鉄道局長と改めて認識を共有でき、確認できたことは、今回の陳情の最大の成果であると思っております。

また、リニア中央新幹線の奈良市附近駅につきまして、国から建設主体、営業主体として、建設の指示を受けたJR東海が、リニア中央新幹線の特性、環境への影響、建設コストなどの観点から、調査・検討を行い、中間駅の位置を最終的に決定されることになっておるものでございます。本県といたしましては、県内の市町村の窓口として、調整の役割を担っております。旅客需要予測やアクセスなどに係る客観的なデータを県民の皆様方に示すとともに、さまざまな検討、議論を深め、JR東海とも協力をしながら調整を進めていきたいと考えております。JR東海は、土地の取得について万全を期したいということ念頭に深く置いておられるように認識をしております。

◆十三番（除真夕美） ご答弁いただきまして、ありがとうございます。時間がございませんが、少し質問をしたいと思っております。リニア中央新幹線についてでございますが、奈良市附近ということで、その駅の確認はできたというお話でございました。二つあったかと思っております。奈良市附近ということと、あと、同時全線開業ということが奈良県の大きな二つの要望ポイントであったかと思っておりますが、先日、JR東海の山田社長が大阪市内で記者会見をして、リニア中央新幹線の大阪まで同時開業は物理的に無理だと、こんなふうに記者会見をされておりますが、これはきょうに限ったことではございませんが、この同時開業について知事は、もちろん思っているのですけれども、それについてこの記者会見を受けて、どんなふうに感じていらっしゃるのか、お伺いしたいと思います。

◎知事（荒井正吾） リニア中央新幹線の要望の中心は、奈良市附近の確定と同時開業のお願いということでございますが、JR東海は、九兆円以上の大きなプロジェクトでございますので、東京ー名古屋に精力をつぎ込みたい、名古屋までのめどがついたら、また西のほうに展開したいということでございます。まだ時間がございますので、いろんな知恵を絞る必要があらうかと思っておりますし、国が支援をするのは、JR東海は、国がこれまで鉄道プロジェクトにいろんな政治介入があったことを、もと国鉄の方たちでございまして、よく知っておられるわけでございます。そういうことを避けたいというのがとても強いご意向だというふうに理解をしております。そのような中で、整備の促進の知恵をどのように提示できるか、国が、提示する知恵は拒まないと言っておられますので、いい知恵があれば、JR東海が受け付けられる知恵があれば、同時開業は現実に物理的に難しいことであっても、そんなに間をおかないようにおっかけて開業できる可能性はあり得るといふふうに感じております。